和文化教育学会　奈良大会　発表資料　2016.11.19

「双六にみる職業観・仕事観の変遷」

平成 28 年 11 月 19 日
築地双六館　館長
公益社団法人全国求人情報協会　常務理事
ＮＰＯ法人　キャリア権推進ネットワーク広報部長
吉田　修

＜要旨＞

絵双六は、それぞれの時代の風俗・習慣・価値観を映す鑑です。「上がり」にはその時代の夢・憧れ・希望が見事に表現されており、庶民の息吹が伝わってきます。日本の最初の絵双六は、13 世紀後半頃天台宗の新米の僧に仏法の名目を遊びながら学ばせるために考案された仏法双六だといわれています。つまり、仕事を学ぶための双六でした。以来、「職業・仕事・出世」は、双六の最も重要なジャンルの一つです。鈴木正三(1579 年～1655 年・三河)は、「職分仏行説」を説き、全職業を平等で必要な天職であるとし、「修行として仕事に精進することが個人の救済、人格の完成をもたらす」としました。その後に登場する石田梅岩、二宮尊徳の勤労哲学や職業倫理にも影響を与えることになります。明治維新は職業観を一変させました。明治 5 年に敷かれた学制には、「学問は身を立つるの財本(もとで)」、つまり、勉強すれば立身出世できるという功利主義に基づく思想を内包していました。併せて、職業選択の自由や居住の自由が認められ、富国強兵の国家方針が定められました。この立身出世主義は、戦後まで大きな影響を与えました。今回の研究発表では、以下の双六を取り上げ、江戸・明治・大正・昭和・平成の約 160 年間における日本人の職業観・仕事観の変遷を辿ります。新板商賣往来諸職大寶會飛廻双六（安政)、新案婦人風俗雙六 (明治 38 年)、實業少年出世雙六 (明治 41 年)、學生雙六 (明治 45 年)、女運だめし双六 (大正 15 年)、へいたいさん双六　(昭和 15 年）、人生競争双六（ 昭和 25 年）、平成版諸職就業形態多様化双六（平成 16 年)、プロフェショナル時代の到来専門職業飛廻寿語録（平成 17 年）等。

■絵双六の始まりは天台僧の仕事双六

私は絵双六を蒐集する傍ら、依頼を受けて双六の創作を行っており、世界唯一の双六作家を自称しています。現在、築地双六館のホームページ〈http://www.sugoroku.net/〉上で、「『絵双六に見る職業観の変遷』―江戸～平成時代それぞれのキャリアの磨き方―」の特別展を行っています。絵双六は、それぞれの時代の風俗・習慣・価値観を映す鑑です。「上がり」にはその時代の夢・憧れ・希望が見事に表現されており、庶民の息吹が伝わってきます。さて、日本の最初の絵双六は、13 世紀後半頃天台宗の新米の僧に仏法の名目を遊びながら学ばせるために考案された仏法双六だといわれています。つまり、仕事を学ぶための双六だったのです。以来、「職業・仕事・出世」は、双六の最も重要なジャンルの一つになりました。そもそも、職業観・仕事観・出世観は歴史的に、どのような変遷を経て今日に至ったのでしょうか？

■「仕事」は長い間評価されなかった！？

今日、「仕事こそ生きがいの根源であり、自己実現のための最良の方法である」とされていますが、実はこの仕事をめぐる評価は、その昔においては、以下のようにさほど高いものではなかったようです。特に、宗教界においては、否定的なものでした。

・古代ギリシャ人は、仕事は呪いであるとし、他者に雇われて働くことに強い偏見をもっていた。

・紀元前 8～9 世紀頃、ホメロスは、「神々は人間を憎み、人間に労苦を強いた」と述べた。

・古代ギリシャ人は、肉体労働より精神労働を志向し、医者は患者の診察は行うが、手術は理髪店に任せていた。こうした偏見は 18 世紀まで続いた。

・アリストテレスは、金銭的利益のためになされる仕事は欲望を満たすためのものと考え、仕事中心の人生を送る人を鋭く批判した。人生における本当の仕事とは、余暇を通じて人間として成長することであるとして、絵画・体育・音楽等のリベラルアーツを奨励した。また、中庸・自制といった精神的美徳は、仕事ではなく、戦争と教育が教えてくれるものだと断じた。

・紀元前 6 世紀に、ブッダは、掃き掃除、拭き掃除、薪ひろいなどのつつましい仕事は、悟りへの道であると説いたが、「他者を苦しめたり、騙したりする」仕事を戒めた。

・キリストの本職は大工だが、「食べ物のことで思い煩うな。仕事は問題ではない」と説いた。

・古代ローマ帝国のティムガッド（アルジェリア）の遺跡の落書きには、「狩りをし、風呂に入り、ゲームをし、笑う。これが人生だ」とある。

・中世の教会は、物質的な利益のためになされる仕事や報酬へのこだわりを危険視し、傲慢と嫉妬は、私たちが仕事で自らを評価し、他人と比べる結果であると指弾した。

・古代から中世のキリスト・仏教世界では、仕事よりも「祈り」や「勤行」がずっと大切なことであった。

・蓮如（浄土真宗中興の祖）は、「たとい商いをするとも仏法のご用と心得べし」とした。

・親鸞は『歎異鈔』第 7 章で、「念仏者は無碍の一道なり」（念仏こそ、いっさいの障りが障りとならない、絶対の幸福である）とした。

以上のように中世までは仕事は労苦であり、人生において優先すべきことではないとの認識が洋の東西を問わずあったようです。それを抜本的に変えたのがマルティン・ルター
（1483 年～1546 年・ドイツ）でした。

■仕事観を抜本変革したルターとカルヴァン

中世までは仕事は労苦であり、人生において優先すべきことではないとの認識が洋の東西を問わずあったことを前述しました。西洋では、宗教改革という時代の潮目にマルティン・ルター（1483 年～1546 年・ドイツ）が登場しました。彼は「すべての仕事(Beruf)は、聖職(Calling)である」と初めて定義づけ、仕事を通じて、救済を追求できるとしました。ルターに次いで、プロテスタントを世界に広めたジャン・カルヴァン（1509 年～1564・フランス）は、職業は神から与えられたものであるとし、得られた富の蓄財を認め、当時の中小商工業者から多くの支持を得て、資本主義の幕開けを思想の上からも支持しました。その後、資本主義における職業観を確立するさまざまな思想を後押ししました。チャールズ・ダーウィン（1809～1882 年・イギリス）の進化論は、「社会ダーウィニズム」（自然淘汰、適者生存の原理を人間社会に適用するという考え方）に影響を与え、資本主義における競争や出世を称賛し、ジャン・ジャック・ルソー（1712～1778 年・フランス）は、「働くことは人間の義務だ。手（肉体）と頭（精神）を使う職業である職人こそ最高の生き方である」と『エミール』の中で強調しました。米大統領になる前のジェームズ・ガーフィールド（1831 年～1881 年・アメリカ）は、ビジネスと仕事によってアメリカン・ドリームが実現できると学生に説いています。面白いのは、ベンジャミン・フランクリン（1706 年～1790 年・アメリカ）が「死の床において、もっと仕事に時間を使えばよかったと言う人はめったにいない」と言ったことです。彼は印刷事業者として身を起こし、政治家のみならず、外交官、著述家、物理学者、気象学者としても大成しました。刻苦勉励型の超仕事人間であった彼が、このような嘆息をもらすほど仕事が人生の中心を占めていたのです。

■鈴木正三の職分仏行説

鈴木正三（すずきしょうさん）（1597 年～1655 年・三河）は、仏法則世法、職分仏行説を唱えた江戸時代初期の仏教者で、奇しくもルターやカルヴァンと同世代人です。彼の著作『萬民徳用』では「職業を宇宙の主宰者たる仏の分身と説き、全職業を平等で必要な天職であるとし、修行として仕事に精進することが個人の救済、人格の完成をもたらす」ものとしました。正直、勤勉、役割分担による職能的な社会連帯の職業倫理は、幕府の儒教倫理とも合致して浸透しました。その後、石田梅岩、二宮尊徳の勤労哲学や職業倫理に影響を与えました。

現在、東アジアの経済発展がこのような儒教文化の職業倫理と結び付いているという見方があります。中村元（はじめ）先生（1912 年～1999 年・インド哲学者。東京大学名誉教授・日本学士院会員・松江市出身で菩提寺は私の実家である真光寺）は、『近世日本における批判的精神の一考察』（1949 年）において、「鈴木正三の思想は西欧資本主義の発展を支えたプロテスタントの倫理に匹敵する近代的合理精神の先駆け」と評しています。

■古代中国の官僚双六

庶民の仕事観とは異なり、官僚の世界では、古代中国以来熾烈な出世競争がありました。官僚登用制度の「科挙」は、隋朝の楊堅（文帝：541～604 年）が初めて導入し、清朝末期の 1905 年に廃止されるまで 1300 年も続きました。清代を代表する考証学者の一人、趙翼（1727～1814 年）の随筆集『余叢考』（清朝の歴史を幅広く書いた史書）巻 33 に「陞官図（しょうかんず）」の項があり、唐の房千里の「骰子選格序」（『文苑英華』巻 378）で、サイコロを投げてその出目で官位を上下するゲームがあったことを、開成 3 年（838 年）の話として書かれていると紹介しています。まさに官僚出世双六です。いつの世も立身出世はサラリーマンの最大関心事だったことがわかります。

■往来物が培った職業観

明治 10 年に来日したエドワード・モースは「アメリカと違い日本の大工は何代もの世襲で、子どもはかんな屑の香りのなかで育つ。仕事が優秀なだけではなく、創意工夫にたけた能力を持っている」と驚嘆したと書いています。江戸時代における職業観醸成の背景には、身分制度のもとで職業の世襲制によって培われた「先達を師と仰ぎ、道を究める」勤勉性がありました。また、庭訓往来と寺子屋による教育システムの存在も見逃せません。庭訓往来は衣食住、職業、領国経営、建築、司法、職分、仏教、武具、教養、療養等多岐にわたる一般常識の教科書であり、その種類は多く、7000 種にも及び、そのうち 1000 種は女子用だったといわれています。日本人の高い職業意識と倫理感が、津々浦々にまで浸透していったのは高度な木版技術の発達によるところも大きいのです。江戸時代を通じた出版版元の総数は 3653。京（1449）、江戸（1039）、大坂（743）、それに名古屋（72）、仙台（30）が続いていました。これは当時の世界でもトップレベルの版元密集度でした。

■江戸時代の仕事を活写した双六

江戸時代の職業尽くし双六である「新板商賣往来諸職大寶會飛廻双六（しんぱんしょうばいおうらいしょしょくのにぎわいとびまわりすごろく）」（安政年間・京都版元の平井清麿作）を紹介します。振出しは西宮えびす大市、上がりは大店の賑わい風景です。湯熨斗家（クリーニング）、寺子屋、仕立物、呉服太物、漆家、表具師、杣と木挽き、素麺屋、茶染屋、臼目立て屋、綿屋などがコマ割りされており、多彩な職業が京の町を繁
栄させていたことがうかがえます。

■江戸の町人の職業残存率は 77%

余談であるが、筆者は 2005 年に「江戸時代の町人の職業の平成における残存状況調査」を行ったことがあります。士農工商のうちの工商の職業カタログである「江戸の生業事典」に掲載されている 488 種の職業の残存状況を、
①現在もほとんどそのまま存在する職業
②業態は変わったが今も存在する職業
③現在は存在しないか、消滅しかかっている職業
の 3 種類に分類し、さらに職業別に 6 つに区分して分析した結果、次のことが判明しました。
・①は 161 種類で 33.0%、②は 215 種類で 44.0%であり、この二つを合わせた江戸・平成職業残存率は 77.0%とかなり高い。
・販売系職業の職業残存率は 81.5%と、職人（66.2%）やサービス系（59.5%）の職業と比べ大きく上回っているが、そのままの形で存在する割合は 21.5%と職人（55.4%）やサービス系（50.0%）の職業と比べると大きく下回る。大都市であった江戸では、販売系の職業が最も種類が多く、多様化していた。当時は生鮮食料品や日用品を主に行商や棒手振りにより個人が単品で商っていたが、現代においてはスーパー・百貨店・コンビニエンスストアへと業態を変化させ、企業組織の中で商われている場合が多い。流通の変化に合わせて職業が統合されてきており、流通革命は職業革命でもあったといえよう。
・販売系の職業の中で鰻屋、居酒屋などの飲食店だけは現在も存在する割合が 100%であった。「食」にかかわる商売は時代の影響を受けない根強さがある。
・サービス系職業や芸人においては、消滅あるいは消滅しかかっている職業の割合が半分近くもある。猫の蚤取り、粟餅曲春き（縁日などで口上を述べながら粟餅を片手で四つの団子にして七尺離れた器に投げ入れる芸人）などのユニークな職業はすでになくなっている。
・時代の影響を受けていないのが、三味線・算盤の師匠や外科医・針医などの先生・講師・医療系職業である。

■ 明治の立志出世の職業観

明治五年に敷かれた学制は職業観を一変させました。その基本思想は「学問は身を立つるの財本(もとで)」、つまり、勉強すれば立身出世できるという功利主義に基づくものでした。あわせて、職業選択の自由や居住の自由が認められ、富国強兵の国家方針が定められたことが、江戸時代を通じて身分に固定されていた職業観を塗り替えていきました。個人の野心を受け止める社会的な受け皿ができ上がったのです。この立身出世主義を庶民層にまで普及させたのが、明治のベストセラー、『学問のすゝめ』『西国立志編』でした。明治 10 年に創刊された少年少女向け作文投稿雑誌「頴才(えいさい)新誌」も注目すべき存在でした。明治 10 年から 12 年までに投稿された作文 1550 本のうち 15.5%が立身出世に関するものだったといわれています。

■尋常小学生の希望の職ランキング

明治 25 年の「教育時論」254 号に「尋常師範付属小学生徒の志望」調査（N＝128）が掲載されています。これによると 1 位兵士、2 位商人、3 位農業、4 位教員、5 位勉強の継続、6 位大工、7 位酒屋および左官、9 位知事および士官および足袋屋の順でした。実によく世相を反映しています。この調査の中に山伏を志望する生徒が 1 人いました。
明治元年の神仏分離令に続き、明治五年に修験禁止令が出されました。山伏は強制的に還俗させられたわけです。そのような凄まじい寒風が吹きすさぶ時代の中で、当時としては
高学歴の少年が、毅然と山伏を志した理由は何であり、その後どのような人生を歩んだのでしょう。想像が膨らむばかりです。アメリカでは 1897 年（明治 30 年）には、雑誌「サクセス」が発行され、「丸太小屋からホワイトハウスまで」というアメリカンドリームの成功主義を喧伝していました

■双六が職業観醸成に果たした役割

明治時代は大量印刷の技術が発達し、流通販売ルートの確立と相まって、各種の少年少女雑誌が誕生し、子どもの職業観に影響を与えました。「日本少年」という当時有名な雑誌は、大正 8 年の正月号で 35 万部を売り尽くしたといわれています。これらの雑誌の新年特別付録として、必ず双六が採用されました。振出しは、誕生や小学校卒業であり、上がりは内閣総理大臣、陸軍大将山縣候、馬車出勤、貴婦人、嫁入りでした。双六には、その時代の夢や憧れや希望が見事に表現されており、庶民の息吹が伝わってきます。たとえば、以下のような双六が全国津々浦々のお正月の団欒で遊ばれていました。新案官職補任雙陸・明治 21 年、勧善懲悪終身雙六出世之礎・明治 31 年、出世須悟録・明治 32 年、新案雙六当世二筋道・明治 40 年、令嬢成長双六・明治 43 年等。この中で二つの出世双六を紹介しましょう。最初は、實業少年出世雙六・明治 41 年です．振出しは「奉公」。「辛抱」「買い食い」「酒」「信用」「なまけ」「事務員」「主人大事」「賞与」等を経て、「実業会社社長就任披露園遊会・独立商店開業披露園遊会」で上がり。明治の男の子の夢は、社長か独立開業。現代と変わらないコマの展開です。独立商店開業披露園遊会二つ目は、新案婦人風俗雙六・明治 38 年です。振出しは「令嬢」。「女学生」「女工」「子守」「芸者」「髪結い」「女教師」「看護婦」「内儀」「奥様」等を経て、「貴婦人」で上がり。男女で全く異なる職業観であったことがわかります。ちなみに、この双六の作画者の水野年方(みずのとしかた)は、江戸から明治に移行する時代に浮世絵師から日本画家になり、有職故実（古来の儀式・礼法の典型的方式）の研究を行いつつ、鏑木清方らの門人を輩出する芸術家になりました。彼も時代の激流に立ち向かったプロフェッショナルだったのです。

■吉川英治の刻苦勉励の志

明治 16 年の農業従事者は就労者人口の 78%で、大正 9 年には 54%にまで減少しています。これに代わって増えたのは労働者であり、自営業者です。一方、明治 25 年の人口の県別ベスト 5 は、①新潟県、②兵庫県、③愛知県、④東京府、⑤広島県でした。1 位の新潟県の人口は 171 万人、東京府は 136 万人で、以降 100 年で 10 倍に膨れ上がります。明治以降、わが国は人・物・金・情報が豊富な東京圏に人口が集中していくわけですが、その背景には、明治の刻苦勉励・立身出世の職業観がありました。作家吉川英治も上京苦学した青年の一人で、家計を助けるために横浜ドックの船具工として働いていた明治 43 年の情況をこのように書いています。「その頃の、苦学という事、東京へ出るという夢は、当時のぼくら青年にとっては、最高の希望を、最低の手段で掴もうとする唯一の道であった。封建中国のむかしにも、洛陽へ上って進士の試験を受けるのを青春の第一関門とした若人たちが“笈ヲ負ウテ郷関ヲ出ヅ”と悲嘆したものだが、そんな気もちに似たものが、明治末期のぼくらにも、やはりあったのである」（『忘れ残りの記』より）。

■苦学を支える通信教育とアルバイト

福沢諭吉も著書『民情一新』の中で、「職人芸人より以上文人学士に至るまでも、都会の地に占めるに非ざれば其名を成して其説を分布せしむるを得ず」と述べ、有為な若者であっても田舎暮らしのままでは、前途が開けないことを嘆いています。この問題の解決には 2 つのインフラの整備が必要でした。まず、通信教育についていえば、その始まりは、1840 年のイギリスで生まれたアイザック・ピットマンの郵便を利用した速記コースだそうです。日本の通信教育の源流は、江戸時代後半、本居宣長と師匠の賀茂真淵の間での手紙を使った添削指導です。「松坂の一夜」といわれるように、二人は生涯に一度しか会ったことがありませんが、4 年間にわたる書簡による遠隔教育によって『万葉集』の研究が進んだのです。本格的な通信教育は、明治 10 年代に登場した講義録を郵送したもので、大学講義録とも呼ばれています。当時は現在のような大学は存在せず、その前身となる各種学校のようなものだったため、講義録という名称でくくられていました。読者の多くは大学進学が不可能な地方の青年で、法政大学の前身となる東京法学社、中央大学の前身英吉利法律学校、早稲田大学の前身東京専門学校等が講義録を発行していました。毎月 2～3 回送られてくる講義録を自習し、卒業試験を受け卒業証書が授与されるというしくみです。苦学生が次に難儀したのが、生活の糧を得るためのアルバイトです。新聞や牛乳配達、納豆売り、文房具行商、人力車夫等です。大正 2 年発行の「東都遊学成功法」には、「東京の中学生以上の学生は約 5 万人いるが、そのうち約 2 万人は浪人・苦学生予備軍・自称学生など学籍なきものであり、5 万人のうち 4 万人は食い詰め者である」と、書かれています。このような苦学の情況は恰好の双六ネタになります。明治後半の出世双六には、「苦学」「放蕩」「賭博」「破産」「病気」「零落」「悪心」「退校」等の戒めのコマが配されています。「月刊學生」は、」」大町桂月が主筆を、坪内逍遥、小川未明、石川啄木らが主要同人を務めた中学生向けの雑誌ですが、明治 45 年の正月号の「學生雙六」には、「放校」のコマに止まったら「三度廻ってお辞儀」「犬の真似」「詩吟或は唱歌」「鼻を摘まんで舌を出す」といった手厳しい罰が待っています。立身出世の双六は一回休んだり、振出しに戻ったり、永沈（ようちん）（ゲーム終了）になったりと容易にはコマを進めるわけにはいかなかったようです。

■女性活躍の時代の幕開け

三島由紀夫は『豊饒の海』第一巻で、明治は「清らか偉大な英雄と神の時代」とし、大正は「軟弱な情けない時代」と嘆いています。益荒男（ますらお）の三島からみれば手弱女（たおやめ）の大正と映ったことでしょうが、職業観の歴史からいえば、女性活躍の幕が開いた時代といえます。職業女性の躍動をみてみましょう。まずは、明治 28 年に、徳富蘇峰が中心となって結成された民友社から、わが国初の女性向け職業案内書『婦人と職業』が出版されました。その主張は「吾人は飽くまで婦人の職業を取るを可とするものなり。職業に従事せば、自治も、独立も、権利も品格も自由も自ら来るものなり」と極めて開明的なものでした。明治 44 年に創刊された『青鞜』の序文において、平塚雷鳥は「元始女性は太陽であった」と謳い上げ、女性解放・権利獲得、反戦・平和活動を開始しました。大正時代には、女性による先駆的な職域拡大が進みました。大正 3 年に宝塚少女歌劇団が第一回目の公演。5 年には黒田チカが東北帝大で理学士号を取得。9 年には東京女子医専が設立。花柳はるみが日本映画の女優第一号に。11 年には、高良とみが日本人女性として初めてコロンビア大学大学院で博士号を取得等々。大正元年の中央新聞に連載された「婦人の職業」シリーズには、22 種の婦人の職業があげられています。それによると医師、看護婦、薬剤師、産婆、教育家、新聞記者、写真師や電話交換手、タイピスト、専売局女工、手芸、洋裁・ミシン裁縫、事務員、外交員、美容師、婦人雑誌創刊に伴う雑誌記者、放送員、バスガール、デパート店員、女給などのほかに、映画女優や女性アナウンサーという新しい仕事が掲載されています。想像以上に女性の社会進出は進んでいたようです。大正時代後期には職業婦人の権利、地位向上へ向けて女子車掌の東京婦人労働組合や職業婦人団体連盟もできました。婦人専門の職業紹介所としては、私立では明治 40 年に財団法人大阪婦人ホーム職業紹介所が、公立では大正 13 年に東京市婦人職業紹介所が設立されました。

■就学率急上昇と職種の多様化

明治 33 年の小学校令以降、高等小学校が急速に普及し、明治 40 年には尋常小学校 6 年制の義務教育が確立されました。その結果、学齢児童の就学率は明治 25 年 55.1%（男 71.7、女 36.5）、明治 40 年 97.4%（男 98.5、女 96.1）、大正 5 年 98.6%（男 99.0、女 98.2）となり、中等教育機関（旧制中学、高等女学校、実業学校、師範学校の本科）への進学率は明治 28 年 4.3%（男 5.1、女 1.3）、明治 43 年 12.3%（男 13.9、女 9.2）、大正 14 年 17.1%（男 19.8、女 14.1）と推移しました。明治末期から大正時代は、国民の基礎学力が急激に向上し、職業選択の幅が広がりました。これは当時の双六にも表れています。大正 15 年の「女運だめし双六」（『少女世界』新年号）は、女子学生の大変斬新な大正ロマン風の双六です。最初に「画家」「女医」「運動家」「美容師」「女博士」「音楽家」「先生」「女車掌」「タイピスト」「飛行家」の 10 の職業から希望するものを選びます。振り出しは「学校時代」。ここから 10 の職業に向けてそれぞれのコマが刻んであります。「練習」「卒業」「實地研究」「採用試験」「海外留学」は共通のコマです。求職者の志向に合わせたシミュレーションゲームなのです。一方の現実として、農村の疲弊や軍部の台頭が若者の職業観に影響を及ぼしてきました。

■幸之助翁の至言「一人一業主義」

私は予てより「生物の種が多様であるほど豊かな自然環境を享受できるが如く、職種が多様であるほど豊かな文明社会である」との認識を持っていました。昨今、ＡＩの雇用への影響についての議論が盛んですが、ＡＩは仕事や職種の賞味期限の短縮化する一方で、新しいニーズに対応する職種を数多く生み出すものと確信しています。恥ずかしながら、これと同じことをもっと精緻に政経文化論として語っておられる先哲がいらっしゃることを最近知りました。松下幸之助翁です。昭和 30 年代の幾つかの著書に書かれていました。翁いわく「非常に高い文化の国は職種が多く、原始的な国は職種が少ない。例えば、昔の医者は何でも見てくれたが、今は流行らない。医者の技術が高まるほどに専門職種が増えていく。理想をいえば、一人一業主義だ。わが国に一億の職種があるとすれば、国民すべてがところを得、志を得ることになり、絢爛たる文化の華が開く。つまり、職種を増やしていくことを考慮した政治を行わなければならない。」と。翁は古今東西の歴史を踏まえて、魂魄の職業文化論を展開し、高度成長期前夜の日本人に歩むべき途を示したのです。

■職業軍人急増の背景

前置きが長くなりましたが、それには理由があります。戦前の昭和は、一つの職種が幅を利かせていました。軍人です。昭和 5 年に陸海軍併せて 25 万人（現在の自衛隊の人数とほぼ同じ）であった軍人数は、昭和 16 年には 241 万人、20 年には 719 万人へと 15 年間で 28 倍に膨れ上がっています。その陰で、衰退した産業や消滅した職業も多々あったことでしょう。さて、生徒や学生が軍人を志した理由は何だったのでしょうか？海軍では「スマートで、目先がきいて几帳面、負けじ魂これぞ船乗り」というネイビースピリットを表出した標語が効果的に使われました。当時の将校になるための受験案内書の「百折不倒万難を排して猛進せば光輝あるモールに身を包むことができ得る」という甘美な言辞に誘われた者もある一方、「将校になれば死ぬまでは食わせてもらえ、生き残れば恩給がある」と、安定した職業として選んだ者もいました。

■新兵採用ツールとしての双六

双六は、時代の夢・憧れ・希望を映す鏡であり、ドラマ展開の一覧性がその特徴です。ゆえに、戦前の少年雑誌の付録であった軍国双六が、戦意を高揚させ、軍人への憧れを誘発したことも残念ながら事実です。昭和 15 年の国民二年生 正月号付録「へいたいさん双六 」を見てみましょう。振り出しは「歩哨（雪中に敵陣をにらんで立っている兵隊)」。「敵前上陸」「海の護り」「騎兵隊の突撃」「戦車隊」「軍用犬」「衛生隊」「工兵隊」を経て「万歳三唱」で上がりです。陸海軍の兵隊の勇ましさや隠れた苦労を表した仕事双六です。結局、日本の軍隊双六には上がりはなく、1945 年の軍の解体によって、テーマ自体が消滅したことは言うまでもありません。昨今の自衛隊では、国際平和協力業務（PKO）や災害派遣等、役割の変化とテクノロジーの進化により、サイバー防衛隊・特殊武器防護隊・被災地巡回診療班等、継続性と専門性の高い新職種が生まれています。幸之助翁は 1985 年の雑誌に、「産業人も芸能人も自衛隊員も共に課せられた使命を果たすことに命を懸けて日本の繁栄を創りだそう。平和の実現という理想を達成する力を持つことが自衛隊に課せられた使命だ。」と述べ、自衛隊に「平和の実現」という明快なテーマ設定をしています。これならば、志を持った青年を正しくリクルーティングする双六が作成できそうです。

■戦後の職業教育

昭和 20 年 10 月には、連合国軍最高司令部（ＧＨＱ）による「日本教育制度ニ対スル管理政策」が発表され、軍国主義的・国家主義的イデオロギーが禁止され、軍事教育が廃止される一方、議会政治、国際平和、個人の権威、思想、集会、言論、信教の自由等の基本的人権思想の教育が奨励されました。次いで、昭和 21 年 3 月には、GHQ の要請に基づいて米国政府から第一次教育使節団が、日本の教育事情を調査研究し、マッカーサーに報告書を提出しました。その報告書の序論で、「教師の最善の能力は、自由の空気のなかにおいてのみ十分に現される。この空気をつくりだすことが行政官の仕事なのであって、その反対の空気をつくることではない。子供のもつ測り知れない資質は、自由主義という日光の下においてのみ豊かな実を結ぶものである。」と、アメリカ自由主義の教育理念を中心に据え、教育の近代化についての諸提案を行っています。特に、教育制度については、6 年制小学校と 3 年制下級中等学校における 9 か年の無月謝制義務教育および男女共学制、3 年制上級中等学校における無月謝制、男女共学制、希望者全員入学制の実現などを勧告しました。また、修身・歴史教科書の改訂、保健体育や職業教育の重視、ローマ字の採用、教育行政の地方分権化、教師養成の水準向上、成人教育の充実、高等教育の拡大などについても提案し、第二次世界大戦後の日本の教育改革に重要な影響を与えました。この報告書を受けて、昭和 22 年版学習指導要領職業指導編（※試案）では、職業科においては、週４時間の配当で、農業、商業、工業、水産、家庭から一科目又は数科目を選んで学習することとし、いずれを学習させる場合においても「職業指導は常にこれと平行して必修されなければならない」とされていました。

「すべて國民は、勤勞の權利を有し、義務を負ふ）」のであって、職業科は、生徒に労働の態度を堅実にすることと、職業生活の意義と貴さを理解させ将来の自己の職業を自分で考えられる能力を養うことを主眼としていました。そのため、「職業への理解」、「職業研究」、「職業実習」、「職業選択」、「学校選択」の５つの単元からなる職業指導が全ての生徒に必修とされました。

※昭和 22 年当時発行の指導要領の時点では日本政府には決定権がなく、「試案」という言葉で GHQ と国民の両方の顔色をうかがったこともあり、実質的な拘束力は弱かったと言われています。

■キャリア教育の推進

しかし、米国教育使節団報告書や昭和 22 年版学習指導要領職業指導編が指し示した職業教育重視の教育理念は、残念ながら、実践されたとは言えなかったのではないでしょうか？

戦後、日本の企業は、学校を卒業した若者を新卒として一括採用し、企業内教育研修により職業能力を身に着けさせるシステムを機能させてきました。その後、リーマンショック等の不況を経験し、新卒を育成する余裕がなくなり、即戦力を求めるようになり、新卒の職種別採用や中途採用を強化することになったことは周知のことです。そして、平成 19 年、文部科学省が、学校教育法第 21 条（義務教育の目標）第 10 号で「職業についての基礎的な知識と技能，勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」を定め、これが、職業教育やキャリア教育やを推進する上での法的根拠となりました。

厚生労働省は、昭和４４年に、職業能力開発促進法を定め、労働者が自ら職業に関する教育訓練又は職業能力検定を受ける機会を確保するための施策を推進しました。平成 27 年には、「青少年の雇用の促進等に関する法律」（若者雇用促進法）を定め、青少年がその意欲及び能力に応じて、充実した職業生活を営み、有為な職業人として健やかに成育する施策を推進するとともに、「キャリアコンサルタント」を名称独占にし、登録制の国家資格に格上げしました。

■企業も職種も寿命が短くなる時代

オックスフォード大学マーティンスクールの論文「2013 年コンピュータの影響を受けやすい未来の仕事」によれば、これからの 20 年で現在のアメリカの雇用の 50%以上がコンピュータに代替されるといわれています。702 職種の調査によれば、最も代替されやすい職種は、電話営業、裁縫、保険引受け業務、時計修理等であり、代替されにくいのはレクリエーションセラピスト、最前線のメカニック・修理工、メンタルヘルスと薬物利用者サポート、ヘルスケアソーシャルワーカー等です。単純・作業的な仕事は淘汰され、クリエィティブで人間的な対応が必要な仕事は残ります。また、米デューク大学の研究者であるキャシー・デビッドソンによれば、「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65%は、大学卒業時には今は存在していない職業に就くだろう」と予測しています。今後の労働市場においては、仕事や職種の賞味期限の短縮化と多産多死化が進み、働く人には学習すべき知識・スキル・ノウハウの絶えざるブラッシュアップが求められます。

また、帝国データバンクの 2011 年の調査によれば、1980 年～2009 年に創設された企業は 10 年後には約 3 割、20 年後には約 5 割の企業が倒産・撤退しています。2004 年のＪＩＬＴ調査では常用労働者が最も能力を発揮する年齢は 43.4 歳との結果もあります。企業寿命も、労働者の職業能力のピーク時期も決して長くはなく、転職することが前提の時代になったのです。

■キャリア権を考える

キャリア権とは、働く人々が意欲と能力に応じて希望する仕事を選択し、職業生活を通じて幸福を追求する権利です。諏訪康雄法政大学大学院名誉教授が提唱された新しい法的な概念であり、日本オリジナルのものです。憲法では、社会の中で、人間が人間らしく生きていくための権利、基本的人権が認められています。人間が人間らしく生き、自己実現していくためには、職業生活をどう過ごすかが重要な意味を持っています。長期にわたる職業生活の全期間を通じて、働く人一人ひとりのキャリアが断絶することがないよう主体的にキャリアを追求し、展開していくことを基礎づける権利がキャリア権です。

現代の職業双六では、キャリアの継続性が重要です。振出しに戻ったり、永沈（ようちん）（浄土双六で無間地獄・失格の意）に陥ることは避けなければならなりません。実はこれを後押しする判決が出ています。エルメス日本法人事件（東京地判・2010 年）では、「原告が情報システム専門職としてのキャリアを形成していくことができるものとする期待は、合理的なものであり、法的保護に値するものといわなければならない。被告において、配転を含め、原告が就業すべき業務を決定するに当たっては、原告のこのような期待に対して相応の配慮が求められる」とされました。このようにキャリア権を考慮する判決が出始めていることは注目すべきことです。企業には、就労形態を問わず従業員のキャリア形成のための相談・教育研修・働き方の選択（仕事内容・場所・勤務時間等）の支援が求められ、働く人には一生を通じて信頼できる社外のキャリアメンターを持ってほしいと思います。

■戦後～平成の就職シミュレーション双六

このような時代背景の中で、様々な就職シミュレーション双六が制作されました。５つの時代を表現した双六を紹介します。

①　「人生競争双六　・昭和２５年」

戦後間もない時代の中で、憧れの職業を目指す若者の夢や気概が表れている双六です。振り出しは、男女の学生がなりたい職業を語るシーンです。以下の４つのコースごとに展開されます。

・「ぼくは実力のある実業家になって経済日本のために働きたい。」・・・「ある会社に就職した」「荷

造りの仕事からやらされた」「こんなにつらいものとは知らなかった」「身がつかれると心まで狂ってしまう」　「心をとりなおして一心ふらんに勉強したおか　げで、忙しい事務の仕事をやるようになった」「社長にみとめられ重要な席にすわることができた」
・「ぼくはりっぱな教育家になって日本再建につくすつもりだ」・・・「教育者は自分自身正しい道を歩かなければならぬ」「まず小さいよい子をたくさん作る努力をした」「大勢の人から尊敬され親しまれる」
・「ぼくは野球選手として身を立てるよ」・・・「始めはいやな球拾いばっかりさせられた」「少したつといよいよ猛練習の連続だった」「先輩の力強い激励に再び発奮した」　「願望のホームランをかっ飛ばした最初のその感激」
・「わたしは女医になって世の中の病人をなくするわ」・・「夜も遅くまで勉強」「あまり勉強しすぎて病気になる」「病院へはいって病人の看護を一生懸命やって勉強した」博士論文を書くまでになった」
それぞれ希望の職業で成功して「上がり」となる職業双六です。
②　「完全シミュレーション 就職活動すごろく　・平成９年」
47 万人の学生にそれぞれの就活双六があります。典型的な就活双六です。2013 年３月卒の日本の年生・短大の就職希望者数は４７万 7000 人。就職戦線という言葉にもあるように、一種の戦（いくさ）です。陸上でいえば、ある学生は 100ｍで終わるが、１万ｍやマラソンにもなる学生もいます。昨今では終わらない学生もいます。ゆえに、多くの傑作双六が生まれます。学生自身、就職支援センター（就職部）、そして就職メディアによって。”就職”は現代の最も重要な双六のテーマの一つになった。1997 年はインターネット就職が普及し始めた年でもあります。
・就職ジャーナル→インターネットのホームページを見てみる→ベンチャーもいいかもと思いはじめる→毎日が説明会 →正式内定
③　「会社設立すごろく・平成 14 年」
起業ブームの中、会社づくりの手順と最低費用がわかる「会社設立すごろく」。START は、「会社設立を決意」。「資金調達」「類似照合を確認」「設立登記　申請書を購入」「定款認証」「登記簿謄本申請」「印鑑証明書の交付申請」「事務用品を購入」「従業員を雇用」を経て、「祝・会社設立　ＧＯＡＬ］へ。費用は、508 万円。
※当時は、株式会社では 1000 万円、有限会社では 300 万円の資本金が必要でしたが、新会社法では、この最低資本金に関する規定が撤廃され、資本金が１円でも会社を設立することができるようになりました。
・会社設立を決意→コピー＆ＦＡＸのリース→登記簿謄本申請→従業員を雇用→会社設立
④　「平成版諸職就業形態多様化双六（しょしょくしゅうぎょうけいたいたようかすごろく）・平成 16 年」
非正規就業者増加の社会的な背景の中で、多様な就業形態を表した双六。ワークス研究所「正社員時代の終焉　－社会に新しい人材ポートフォーリオを構築するための 10 の提言－　」の付録。「全就業者に占める非正社員の割合が 47％に達した今日、就業形態は様々でもそらぞれぞれのの仕事に価値がある」というコンセプトで制作。
・大学卒業→新卒無業　アルバイト→紹介予定派遣→有償ボランティア→キャリアブレイクで資格取得→就業百態到る処人間あり
⑤　「プロフェショナル時代の到来専門職業飛廻寿語録（クールジャパン・ビジネスプロフェショナルとびまわりすごろく）・平成 17 年」
高い成長が見込まれる 100 職種一覧を掲げ、ビジネス・プロフェッショナルを目指す双六。
出目によっては、なかなかうまくいかず非正規ゾーンから抜け出せない。ワークス研究所「プロフェッショナル時代の到来　−ビジネス・プロフェッショナル創出ビジョン−」の付録。向こう 10 年で高い成長が見込まれる 100 職種（双六の下方に一覧あり）を決定し、ビジネスプロフェッショナル（BP）を目指すプロセスを双六化したもの。出た目の指示に従って進む飛び廻り双六です。

・振出しは「学校卒業」。右半分は失業したり、転職を繰り返すちょっと報われないゾーン。「ＮＥＥＴ・働かずに引きこもり（10 回休んだあと振出しに戻る）」「転職のたびに収入がダウン」「意に添わない人事」「夜な夜な遊ぶ（１回休む）｝。左半分はビジネススキルが着々と身に付くゾーン。４つのビジネス・プロフェッショナル・・・１」ビジネス交渉プロ、２）ビジネス・ソリューションプロ、３）ヒューマンプロ、４）研究プロを目指して、「ビジネス・プロフェッショナル大学院入学」「企業実習で悪い評価を受け落第」「国家プロジェクトに抜擢される」「ヘッドハンティングを受ける」「ロングバカンス（１回休み」「人脈が広がる」を経て、「ＢＰ叙勲・カリスマ営業ウーマン・世界的技術者・アカデミー賞監督」で上がり。

■おわりに

最後に興味深いデータ（下図）を紹介します。「仕事をする上で大切だと思うもの」のキャリア観の国際比較です。1 位の項目は、日本以外の国は、「高い賃金・充実した福利厚生」がであり、日本は「良好な職場の人間関係」です。人材不足の今日、労働条件だけではなく、人や職場を基軸にした情報を如何に効果的に伝えていかないと応募の成果はあがらないようです。「銭より人」の日本人のキャリア観を表しています。

日本人のキャリア観

Recruit Works Institute

仕事をする上で大切だと思うもの（上位3つ）

	高い賃金・充実した福利厚生	自分の希望する仕事内容	雇用の安定性	良好な職場の人間関係	適切な勤務時間・休日	明確なキャリアパス	自分の希望する勤務地	教育研修の機会	正当な評価	会社のステイタス
日本	39.0%	51.3%	36.3%	56.0%	49.0%	10.5%	20.7%	7.0%	25.3%	4.8%
韓国	75.1%	41.3%	46.1%	30.6%	50.2%	11.6%	18.0%	6.8%	13.3%	7.1%
中国	79.0%	31.9%	31.3%	29.9%	30.3%	50.4%	18.3%	10.6%	5.6%	12.7%
マレーシア	78.8%	34.2%	37.4%	25.3%	25.7%	28.7%	18.9%	21.7%	16.1%	13.4%
インドネシア	83.1%	33.4%	23.3%	36.5%	23.1%	38.8%	14.0%	19.0%	12.8%	16.1%
インド	58.8%	29.6%	37.9%	26.3%	23.6%	31.5%	20.3%	19.7%	22.4%	30.0%
アメリカ	56.9%	52.8%	48.4%	25.8%	24.8%	19.8%	33.1%	16.3%	12.3%	9.9%
オーストラリア	52.5%	46.3%	42.8%	32.5%	33.1%	24.5%	27.6%	16.0%	13.6%	11.1%
ドイツ	58.5%	38.7%	45.2%	56.6%	37.4%	6.9%	20.0%	19.3%	11.6%	5.8%

1位
2位

(C) Recruit Works Institute All rights reserved

リクルートワークス研究所「Global Career Survey」2013　25

＜職業・雇用・労働関連　参考文献＞

・「仕事の裏切り　～なぜ、私たちは働くのか～」（原題：The Working　life）
　ジョアン・キウーラ　訳：中嶋愛　　監修：金井壽宏（神戸大学大学院経営学教授）
・ワークシフト　リンダ・グラットン　プレジデント社
・ライフシフト　100 年時代の人生戦略　リンダ・グラットン　東洋経済新報社
・21世紀の不平等　アンソニー・B アトキンソン　　東洋経済新報社
・2052 今後 40 年のグローバル予測　ヨルゲン・ランダース　日経BPマーケティング
・正社員時代の終焉　　ワークス雇用政策プロジェクト　　ワークス研究所
・日本就職史　尾崎盛光　文芸春秋
・日本人の職業倫理　島田燁子　有斐閣
・日本の女性と産業教育　三好信浩　東信堂
・和文化　日本の伝統を体感する」Q&A　和文化教育研究会代表　中村哲　編
・立身出世主義　竹内洋 NHK ライブラリ―
・アメリカ教育使節団報告書　村井実　講談社学習文庫
・雇用の未来　ピーター・キャペリ　日本経済新聞社
・江戸に学ぶ職業倫理（日本におけるCSRの源流）　日本取締役協会　生産性出版
・就職・失業・男女差別―いま、何が起こっているか　岸　智子　日本経済評論社
・繁栄のための考え方　松下幸之助　PHP 文庫
・繁栄の哲学　松下幸之助　PHP 研究所
・就職案内　伊藤為吉　職業問題研究所
・わが国における職業教育の課題と展望　田中萬年　東京リーガルマインド「法律文化」
・鈴木正三「職業即仏行」を説く禅者　　鳥居　祖道　　八重岳書房
・雇用と解雇の法律実務　岡芹健夫　弘文堂
・雇用崩壊時代　労務も知らずに上司といえるか　高井伸夫　かんき出版
・19 人のプロが明かす『仕事論　共著：高井伸夫（トッププレイン編）　三笠書房
・キーワードからみた 「労働法」 大内伸哉　日本法令
・雇用社会 25 の疑問（労働法再入門）　大内伸哉　弘文堂
・『歴史からみた労働法』 大内伸哉　日本法令
・戦前の生活　　武田知弘　ちくま文庫
・日本海軍がよくわかる事典　太平洋戦争研究会　PHP 文庫
・日本陸軍がよくわかる事典　太平洋戦争研究会　PHP 文庫
・陸軍将校の教育社会史　広田照幸　世織書房
・大正時代の先行者たち　　松尾尊充　　同時代ライブラリー
・大正という時代　毎日新聞社
・職工時代　上・中・下巻　犬丸義一　訂　岩波文庫
・明治大正史　世相編　柳田國男　講談社　学術文庫
・ビゴーが見た明治職業事情　清水勲　　講談社　学術文庫
・明治の職業往来　池田功　　上田博　　世界思想社
・福翁自伝　　福澤諭吉　慶応大学
・西国立志編　　サミュエル・スマイルズ　PHP 新書
・明治維新と幕臣　　門松秀樹　中公新書
・女大学評論・新女大学　　福澤諭吉　林望・監修　講談社　学術文庫
・禁じられた江戸風俗　　塩見鮮一郎　現代書館
・養生訓・和俗童子訓　　貝原益軒　岩波文庫
・商売往来　作者不詳

＜双六関連　参考文献＞

「双六」: 吉田修・山本正勝 （文溪堂）
「双六遊美」山本正勝（芸艸堂）
「絵すごろく 生いたちと魅力」山本正勝（芸艸堂）
「すごろくⅠ」「すごろくⅡ」増川宏一（法政大学出版局）
「幕末・明治の絵双六」加藤 康子・松村 倫子 （国書刊行会）
「盤上遊戯」増川宏一（法政大学出版局）
「双六」小西四郎 寿岳章子 村岸義雄（徳間書店）
・Die Welt im Spiel （ゲームの中の世界）
　エルンスト・シュトローハル（オーストリア応用芸術大学教授）
「日本絵双六集成」高橋順二編（柏美術出版）
「正倉院宝物の故郷」米田雄介（大蔵省印刷局）
「絵本江戸風俗往来」菊地貫一郎（平凡社）
「広告で見る江戸時代」中田節子（角川書店）
「俳句歳時記 新年の部」（角川書店編）
「木版画の技と美ー浮世絵今昔ー」同図録編集委員会（NHK）
「浮世絵の見方事典」吉田漱（北辰堂）

＜双六関連　参考サイト＞

双六ねっと（築地双六館運営）
http://www.sugoroku.net/
楊 暁捷 先生 ホームページ
http://www.ucalgary.ca/~xyang
国立国会図書館オンラインサービス
http://www.ndl.go.jp/jp/service/online_service.html
東京学芸大学図書館 双六コレクションデータベース
https://library.u-gakugei.ac.jp/etopia/sugoroku.html
作成協力者：元東京学芸大学教育学部附属高等学校大泉校舎教諭 加藤 康子氏
http://library.u-gakugei.ac.jp/lbhome/sugoroku.html
早稲田大学図書館
http://www.wul.waseda.ac.jp/index-j.html
お茶の水女子大学図書館
http://www.lib.ocha.ac.jp/
白百合女子大学図書館
http://www.shirayuri.ac.jp/lib/index.html
筑波大学付属図書館 特別展『幕末・明治の生活と教育』
http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/bakumatu/setumei.html
江戸東京博物館企画 「絵すごろく」展
http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/exhibition/special/past.html
正倉院展 木画紫檀双六局
http://www.weblio.jp/content/%E6%9C%A8%E7%94%BB%E7%B4%AB%E6%AA%80%E5%8F%8C%E5%85%AD%E5%B1%80
アド・ミュージアム東京
http://www.admt.jp/
金沢・江戸道中案内記
http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/kasou/douchu.html
たばこと塩の博物館 「子どものあそびと拳」
http://www.jti.co.jp/Culture/museum/exhibition/1999/9911nov/ken_4.html

以上